

C-67 アイヌ民族の衣生活について (オニ報)

東京家政大家政 荒井純子

目的及び方法 アイヌ民族の着用していた衣服の種類としては 獣皮衣 腸衣 鳥皮衣 草衣 アツシ レタル^ワ 4カルカル^ワ ルウン^ワ カパラミツ^ワ 4ナリがある。先年現地調査を行った際 彼等の着用した衣服について古老よりたづねた事項をまとめ、各種文献と比較して見た。調査の対象とした衣服は前回と同様彼等が近年まで多く着用していたと思はれる アツシ以下六種の衣服である。オニ報で所持数(枚数 新調度) 着装(年齢 性別 季節 用途 着方)について報告したが、今回は保存状態(日常の手入れ、保存 保管の方法及び場所)について報告する。

結果 彼等が自製或は交易によつて得た布地を衣服とし、彼等特有な技法によつて縫製し、美しい刺繍をほどこして着衣としたことは、前に報告しているが、これ等を日常衣として着用していたとすれば、衣服の管理が必要で、その方法は夏冬の季節によつても異なる。日常の手入れとして洗濯などしない者もあり、洗濯するとしても、沢川などで洗っている。洗剤として使用したと思はれるものは、主として灰汁で、その他、さびたの汁、大豆汁なども使用している。寝衣など着用しないから、常時着衣のままであるが、これを保管する場所としては、男尊 女卑のきびしかったアイヌ民族では、衣服をかける場所、しまう場所にもきびしいおきてがあり、これ等はこの民族の住居形態とも関係がある。